

D2630郡上長良川ロータリークラブ

よいことのために

手を取りあおう

RI会長メッセージ

2025.7~2026.6 会長：佐藤備子 副会長：大村太郎 幹事：清水英志

第48期クラブメッセージ

「輪と和」 輪を広げよう 和やかに

例会日：毎週水曜日 18：30~（6-9月末 19：00~）
 例会場及び事務所：白鳥町農業指導研修センター 2F
 TEL：0575-82-3822 FAX：0575-82-5191
 E-mail：gsrca@abelia.ocn.ne.jp
 発行：クラブ会報委員会

第2235回 令和8年6月17日(水)

本日の行事

最終例会

2025-26年度

佐藤備子会長

* 白鳥地域協議会より

幹事報告

清水英志君

白鳥おどりフォーラム開催の案内

* ガバナーエレクト事務所より

6月28日(日) ふれあい創造館

・ 公共イメージ向上セミナー開催の案内

* 例会変更 関 RC

7月26日(日) ZOOMオンライン

* 週報拝受 志摩 RC

第2234例会報告

■会長挨拶

2025-26年度 佐藤備子会長

皆さん、こんばんは。今日はブラックサンダーチョコレートを購入してきました。

というのも、マイロータリー6月号の「SPEECH」のページに、「食べる人だけでなく、作る人も笑顔にしたい」という記事が掲載されていたからです。看板商品のブラックサンダーが大ヒットしたことをきっかけに、有楽製菓では社会貢献活動に力を入れるようになりました。その中で、チョコレートの原料であるカカオ豆の生産現場に児童労働の問題があることがわかり、原料調達や取引のあり方を見直したそうです。

利益や効率だけではなく、生産者も、働く人も、消費者も、みんなが笑顔になれる企業を目指しているという内容でした。ブラックサンダーは昔からあるお菓子とおもっていましたが、体操の内村航平選手が

「好きなお菓子はブラックサンダーです」行ったことが、大ヒットのきっかけになったそうです。

この記事を読んで、私は料理研究家の土井善晴さんのことを思い出しました。令和4年に郡上八幡の文化センターで開催された環境シンポジウムで、「一汁一菜でよいという提案 ~食品ロス削減 私にできること

~」という講演をされました。私はコンポスト活動の関係で環境課からお声掛けをいただき、お手伝いをしていましたので、その時に名刺交換をさせていただきました。それ以来の大ファンです。本も何冊か読みました。NHKのきょうの料理も時々出演されています。土井先生のお話は、何かを否定せず、決めつけず、ちょうどよいところに着地するので、とても共感できます。

先生はよく、「少し前の暮らしを見直してみませんか」と話されます。日本には「もったいない」という言葉があります。食べ残しを捨てる時にも使いますし、自分には過分なお言葉をいただいた時にも「もったいないお言葉です」と言います。私は、この感覚は日本人が大切にしてきた価値観だと思っています。

土井先生は、「地球・料理を作る人・食べる人」この三者が利他の関係にあるとおっしゃいます。

利他とは、自分の利益だけでなく、他人の幸せを願い行動することです。今は自己中心的な考え方が増えたとも言われますが、利他の心が広がれば、もっと生きやすい社会になるのではないかと思います。そして台所に立つこと自体が、実は利他の行為だということです。どんな旬の食材を使おうかと考えることは地球と向き合うこと。食べる人のことを思いながら料理を作ることも利他です。私自身も、春には田んぼが始まると

あずき菜を摘み、よもぎを摘み、筍を掘り、夏には畑の野菜とまとやきゅうりを収穫します。自然の恵みをいただきながら、食べる人を思って料理をする。そこには確かに利他の心があります。ブラックサンダーの場合は家庭料理とは違いますが、地球の恵みであるカカオを原料にし、生産地の人たちのことを考え、商品

を手取る人のことも考える。そこにもまた、利他の心があると感じました。そしてこれは、まさにロータリーという職業奉仕の考え方そのものではないかと思いました。ブラックサンダーの包装裏面のQRコードを読み取ると、この活動の特設サイトを見ることができます。ぜひ一度ご覧になってみてください。

本日の書は「山是山 水是水（やまはこれやま みずはこれみず）」山は山、水是水。あるがままを、そのままに見ることが真実であるという禅の言葉です。花は、ホタルフクロです。

皆さん、こんばんは。今回もありがたい時間をいただきました。

ガバナー補佐の反省会が名古屋でありましたが、ほとんど全てのガバナー補佐さんがやってよかったと言っておりました。私ももちろん、やってよかったと言いました。最初は本当に務まるのか、時間があるのかと思っておりましたが、一番の得る所はこうして皆さん方のところへ訪問できるというのが一番良いです。

腹を割って知るといえることは、すごく参考になりました。それと、こうして顔を合わせても、皆さん大体知った顔だなというのが、私にとっては宝になりました。

もう一つ良かったのは、自分たちの IM をやったことです。皆さんに来ていただきまして、ありがとうございました。私共は肅々とやりましたけども、他の IM に行きますと、

前半戦は普通に真面目にやりますけど、後半戦になりますと各クラブ対抗の歌合戦とか、アルコールが入ってすごいどんちゃん騒ぎになり、こんなのありかなと最初は思いましたが、こういうのもやはりありだなと思いました。ロータリーは楽しくなくちゃダメだと思いました。畑中さんも心配することはありません。多分1年後はやってよかったと思うと思います。

ロータリーの話をして、皆さんはすでに素晴らしいことをやっておられます。新聞でも踊りフェスタや図書館への寄付なども取り上げられ、まさに社会貢献しておられますので、あまりロータリーのことは喋りません。

今日は僕は色んなスポーツの世界で講演をした際に引用することや、自分が聞きに行き面白いなと思ったことをプリントして参りました。

話すだけでは右から左に飛んでいくので、そうすると「あの時言っていたのはこういうことか」と分かっていただけだと思います。

最初に私が講演を聞きに行きびっくりしたのは、大谷翔平を育てた花巻東高校の佐々木洋監督の講演です。

「学校へは失敗しに行く」と、その言葉が出てきたんです。

普通は学校で失敗しないように親は一生懸命、子供にあれしたらダメよ、これしたらダメよと言っていますけど、逆です。学校は学びの場なので、失敗して初めてどこが悪かったというのが分かります。昔から「失敗は成功の元」と言われていますが、子供たちにも失敗してもいいんだ。ただし、失敗して終わってはダメなんです。

「なぜ失敗したの?」「ではどうすればいいの?」「どこを直したらいいんだろうか」ということを、指導者は本人が気づくよう促す、もしくは本人にそれを考えさせるというのがポイントだと言っておりました。失敗することを恐れずにやり、やったらやったで それを考えればいい。なぜこれをやるのか、うまくいかなかったらどこが悪かったのかということを考えさせるのが一番大事だということです。出てきた言葉は「学校へは失敗しにくい」という言葉でしたが、中身はそのようなことであります。

もう一つ書いてありますが、「注意されたら、ありがとう。失敗できたら、おめでとう」。これは極論ですが、いかに子供たちに考えさせるかということが非常に大事であります。

私も色んなところで失敗したことはたくさんあります。今でも自分自身で一番その失敗が成功の元になったのは、中学校3年の時です。僕は野球をやっていて、4番バッターでした。1対1の同点で7回の裏ツーアウト満塁。本当に漫画みたいな世界です。ツーアウト満塁、ツースリー。僕は最後の球はボールと思った、勝ったと思いました。しかし、審判はストライクと言いました。これで終わり、同点でジャンケンポンで負けました。あの時に得た教訓は、あとから考えれば審判は際どい球はそんなにボールとは言いません。僕は見逃したっていうのは悔しかったです。

それ以降、僕は少なくともチャンスがあれば思い切ってやる。後輩たちにも言っています。「三振してもいいけど振ってこい。見送り三振だけはダメだ」と。チャレンジはしないことには始まらないので、頑張って最後の一手を出すということは、僕の人生にすごくみついたことになりました。

もう一つ感銘を受けたのは、「ペップトーク」です。ペップトークとは何かというと、短くて分かりやすく、肯定的で魂を揺さぶる言葉がけです。

その人の夢を壊すような否定をするのを「ドリームキラー」、ペップトークの逆で「プッペトーク」と言います。

例えば子供がうまく行かずに失敗したら、「よくお前、やっぱりダメだな」これを言ったら子供の夢は潰れちゃうんですね。「俺はダメか、もう止めた」と。

そうじゃなく、やったことに対してちょっとでもできてる場所があったら、「あっ、ここはできてるじゃん。あと、もうちょっとここを変えればひよっとしたらまたうまくいくぞ。できるかもしれないぞ」という風にする言葉がけがペップトークであります。事実の一つだけども、解釈は無数であります。



捉え方によってネガティブとポジティブを考えてみると、これあくまでも一つの参考です。いろんな事象に対して自分ならこうやるなというのを考えていただくと、言葉が増えると思います。

これはもう捉え方次第で、怒りっぽい。感情が豊か。ルーズ。大らかな人。言い方次第ですね。理屈っぽい。論理的な人。弱気。感受性が高い。鈍感。物事に動じない。もう捉え方いっぱいありますね。

最近、社会的問題になるのがパワハラです。

ペップトークとパワハラは紙一重というので、要するにペップトークというのは信頼してる人が頑張ることを後押しすること。信頼してる人がネガティブな言葉を言っても、皆さんあまりこたえませんね。

「お前は仕事ができないやつやな」と先輩が言うと、「先輩、次は頑張ります」それで済んでしまいます。それはあくまでお互いに信頼関係があるから。ところが逆に、信頼関係のない人から「お前は駄目やね」と言われたら、この野郎と思いますよね。

そういう意味では、ペップトークとパワハラというのは考え方によっては紙一重。

何が大事かという、信頼されているということが大前提になるだろうと思います。

1年間振り返りますと、最初に来たのは、ガバナー補佐訪問としてきたときは清流ではなく濁流でした。そういう意味では思い入れがあるということでもあります。畑中君、心配することはありません。1年楽しむと「俺もやってよかった」と言っていただけだと思います。

1年間支えて頂き、どうもありがとうございました。

■ニコBOX

ニコBOX委員会 児玉利明君

ガバナー補佐 喜久生様 3回目のAGとしてクラブ訪問です。東海北陸道グループの1年間は特に問題なく各クラブ順調でした。1年間ありがとうございました。

関中央RC 古田様 今年度はガバナー補佐ホストクラブとしてお世話になりました。次年度は畑中ガバナー補佐よろしくお願い致します。

関中央RC 高井様 大好きな白鳥に久しぶりに来ることが出来大変嬉しいです。郡上長良川RC皆様よろしくお祈りします。

佐藤備子君 ガバナー補佐喜久生様、吉田様、高井様、ようこそお越しく下さいました。ありがとうございます。孫たちと芝政に行ってきました。20年振りくらいかな??

畑中知昭君 喜久生AG,1年間お疲れ様でした。

東田陽博君 喜久生さん、ようこそ。特別仲良く出来なくてすみません。

山口里美君 国際大会、いよいよ12日(金)から15日(月)まで行ってきます。報告楽しみにお待ちしております。

井俣愛実君 7日の長良川環境レンジャー参加ありがとうございました。

児玉利明君 先週、白鳥おどりの練習に参加してきました。初めて踊りましたが難しかったです。

野島征夫君 ガバナー補佐、関中央ロータリークラブの皆様、遠方ご苦労様です。よろしくお願い致します。

同文 大村太郎君、寺田澄男君、藤代昇君、美谷添里恵子君、松森正和君、清水英志君、遠藤正史君、

杉山賢君、北山浩樹君、有井弥生君

和田良一君 同文 喜久生ガバナー補佐様と前回のグループのゴルフ大会、一緒に回って頂きありがとうございました。

■行事予定

6月 24日 休会
7月 1日 第1例会

■出席報告

出席委員会 和田良一君

回数	会員数	出席者	休会者	補正	出席率
2233回	30名	18名	2名	3名	72.41%
2234回	30名	19名	2名	2名	72.41%